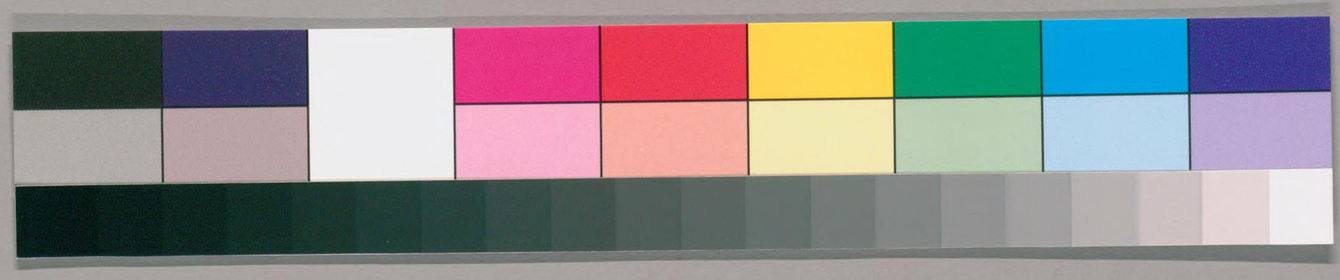


ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

洛陽名所集巻之七目録

上賀茂
社家
神宮寺
賀茂川
貴船川
大宮社
橘町
小篠川
一条戻橋
八坂図
祇園社
金明橋
小野
八瀬
瀧清水
大原
瀬合清水
御霊
志津原
来迎院
芹生里
雲野
鞍馬
僧兵
音無瀧
藤原
鬼城

文部省
昭和
図書
·71121
購求

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

上賀茂

国立国会図書館　　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

上賀茂

○此所ハ洛陽より小や里村おゐく連屋たゞしたるかぶそもそも寺社おほきとぞや

○本社　烈雷神也東向にたちあまり
俗に用尊火外輪遇突智ぬうし俗つまるを俗に諾尊ふたりの子
雷神おくり
又俗に用尊腹満大高上に八色乃雷なり。
其八雷ハ首にありて大雷ハ也ほかを
火雷おくり股より左ハ土雷とひ稚雷なり

雅雪その死屍をおいのちかち
玉江野雷ふくる。陰のこ
つ
皇朝類苑巻日本國奉ス神道ニ列有賀茂明神
託ヲ五歳童ニ降テ言ヲ褊福事ヲ
敏シ朝臣ニ乞ヒ祈ルニ
第作ふことをめいかくこ
ふかくてのこやしべ
乃社ふつつみ
賀茂の雪吉之小ぶ
みくぶけいろの
神

斎院

延喜式第六ふ。凡て天皇位に即給ふ時祭
祭大祓宮乃弥主祓さためふ。内親王乃ふ
せざるをとこひトふ
死ぬ鳥ふ飛ふ
ふ。病ふ息ふ
ふ。魚ふ肉ふ
ふ。墨ふ衰ふ
ふ。斧ふ
ふ。
ふ。
ふ。

ひきる時。人〻ふく。綿をよ。硯そこのみ雪ばかり入く。降也。
又紙よ云付きる。摂津 さる花数く庭
もハ秋でき〻也雪やうみける。
遣る内親王秋やうく。
よくともいむくいあ事なきハうるよ
向くきるのみ猪の代よ乃奇
ふ〻ころにもさ決
○
秋霧
須磨 な乃おもて多
ありひる。鴨長明。云〻書てかけても

なの思ふ里よ歩行秋の霧で

一言神

○ 式内 筑紫社の中小一言ハ筑紫国
筑紫氏久 多の小ぬを引
ふるところなるべし
神山

○ 此山ハ筑紫山云ふ
後と秘説出雲 弥山よ
○ 山里ハ筑紫山よりみさく 繁き

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

賀茂祭の

○けふのうら葵社のあふひ
定家 ふたのかげ雑 祝れなどあ
けくまでうちなびくかな
かざしけるよの勝かのかふ
よこ雲やあらん

○岩本 か社乃東のつるぬ
ばいろみおろう
吉水和尚のに。月ぬめく花をるがあ古
乃やさ〻き人いこにのつとうあみる。
け社ぬそるかな

○橋本 か社へはうでもり
楠 〻ぬもとや。藤原実房卿
笠掛 五月朔日や
名こそ四足の馬ぬそもう
出ぬさぶめ。一足ばくうけさせ。其馬速ぬ見
そのうち。はくく二足なるべがけさせ。馬場中
ぬ小まくく勝負ぬするふこと
競馬 五月晴や
朝日乃ぬにてそもうしひ。衆士未黒乃髪
に紫東ぬうち。おめくく勝負をさぶめ

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

うへまでいるようなそのまゝ社頭ぢゆうおがみ
ちりぬ。落つるばかりけうあるさまにて
よろこびちりめ
その乃うえのうち。笑ひ笑のくらゐさまざまなり。
我さきと機嫌(きげん)うかゞひもとめ。幕(まく)もう発(はつ)と居(ゐ)並(なら)
う興(きょう)ありくせだいはぐみの偏(へん)
にさかづきをあげるもあり。
出(だ)しもの。時乃(じの)うつるまでかゝりむりやめて
すべりでるうけもあり。そやともちやそ

に着(ちゃく)のぎく。車(くるま)ハ連(つら)ねとめんとよひちら
げ。事をハこゝろ。このれおもち
のまにのごとく。法師もそこと
乃うえ。山童野人(やまわろのじん)牧(まき)ばの
遊(あそ)ぬがうおもひ出(だ)すこと
そのそうぞくよだれくめざまし
におのづから白くも酔(よ)ひ
のこゝろそこゝろ
祭乃(まつり)
國祭(くにまつり)ハ四月中乃申日おてあり。
お祭なるべし。賀茂(かも)祭ハ中の酉日おてあ

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

なり。ひろくあつめひろごうるをもつて。
○賀茂松尾社司
此祭ハ欽明天皇の時より始まるなり。
乃ち我邦公事根源なり。
故に諸国ともに崇敬して栄雅の
ものにて。ことにへし笠置のごときハ
又紀野宮ありひとしく
も乃なりぐで我も弥
なり

片岡社

○此社ハ上賀茂の川水より
岩武部ニうに。郭公等ハ
三ぐくすたちやまほとゝぎす
政平のぼりとも少なり
我国の外しおとり
大宮社

○此宮ハ於茂へまでもり。宮南
なり。ちやまほとゝぎす

長谷

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

○ 山下八かえでより二丁ばかり東小のうや
當太上皇の遊殿御營おはしまし
事もろ〳〵

○ みぞしの器のやうかへ巻ふよ
ひなるもよめり八重ざくら
八塩岡

○ 山下八長谷乃うへ乃ふもと
顕季ふうた。淺うすき八し
なゝふやうやくもみぢする乃景
に紅乃ふそめやらぬ白そもん顕照の
景乃ある景なるうへよし又長房ふ

のやうの景色の岩ほや山姫のま
ゝての袖。とそなよくにたるあるさか
ふとゝろに思ひやられ侍てそも
景ふのうへにうつみ
かんなるもぞ。碧玉の緑
水ふとに瓊花の景乃
花ぬんや
山下の太上皇。手につゝ加
なりものへつゝ。
りくにぐ山ばうき行
松崎

本有寺中納言牒判創之

○ 山里はかくこそありけれ
題春の二のまぶの日そらうら
海のこころもや物うき乃あら
玉のに。雪の降りしき出ぬ宮
ためもとゝめぞ立ねりける

櫻井里

○ 山里は松風のみたえせぬ
歌多きのに。見わたせば
春こそ来たるもく櫻井の里西行ふに。
詠井はし澤乃水ぬる日ま後くまめやか
なるはらみの里

岩倉山

○ しかふかく代ゝうゝ
拾遺集に。大中臣能宣
ゝもゝもゝ代ゝうゝ
ゝゝで思ふ又権中納言頼資
石ゝ山乃日ゝまゝゝ
ゝゝん

○ 狐坂 もと松坂と云今ゝ
○ 亀山 岩倉乃中ゝゝ
○ 小藏山 ゝゝのふ。余ゞ名所
○ 朗詠谷 岩倉。也谷ゝゝ
公任ゝ朗詠と撰ゝ

創業の事なり。其也作る。余が先
祖佐竹氏将軍より仕へ奉り。尊氏将軍より仕へ奉り。
末葉ものぐるしく。逞功なく。
領地なくなり。山本若狭守利尚に寄宗し。固より小名にまじる。
是應仁二ぼつとの久世。龍朗の家居せり。其中の
東は花園。長谷。西は野中。旌best市。御菩薩。
南は松林の中村。小出。志津原。村井。瀬尾。福野。
などいふ山なり。丹波の境田。
また河内の方。溝辺辺より國そのくに
秋山。小地すべて國そのくに領主なり。

治し。こゝに五畿内さかひめ。公城列の
こゝに類爲のものくで。ありわたる若狭守
勢位理なる。尚治なる。尚なる男。義なる。
里繁盛けるり。記。
祖父より世宝乃。清乱せるにそくし。漂吟
して。のち号又友我是尚ひるく丹青なり
し。武陵よ高君し大将軍の公爵なり。
蒙なるものく業をやめと一訴し。洛陽のか
ぎ。注しるす太上皇の将御ものく。法橋位に
まいり。又後光明帝なる勅をもて。金殿なる
つかなどくし。なる。

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

○羽林　左右の門にて。十二衛八千人なり

○翊衛　いるの羽林の外の名にて。これも左右にそなへ。

三衛寺のおく乃院そこ。ひの御のおとそこ

まるこ

たまものをひろんだんなふ

そこく。さやさけまう。下

をたく。ほうこそ。

とそ。ふくそうにんそ

日のけまかりてそこそこ

わくまなり



今年の初秋上旬賓相院門主さうるとおしけ

給ゆへ。ふくそ。ふくそ。ふくそ

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

大魚

○

大魚(おおうお)
はまぐり。都城(みやこ)よりとをき里餘(さと)小のうみなり
村なるべしたゞ不(ず)なるべし
和泉式部(いづみしきぶ)亭のにて。世(よ)ばうむくうさい何(なに)ごとをきめ
ぬる大(おほ)ごとゝいふ後(のち)にもゝけるゆゑありてかゝる
人もあるべくへをけり里二庭(さとにわ)名白雪。雅房(まさふさ)
卿(きやう)ひまに筵居(むしろゐ)ながらもち月を賞(しやう)翫(ぐわん)
もう屠(ほふ)れ衣(ころも)をうそのくちよりやぶ
弟(おとゝ)十七乃(の)ぐやらんぱ赤(あか)よこゝろ西素(にしもと)院
ぢ禄(ろく)隊(たい)よ新日(あらひ)あそびけるとく

煩多過高野許衣到大乗院紫門孤隠客
枯樹數声猿愛熟雲鋪席心閑山遠軒
暄花月下経盤立朝昏　以拙詩呈
うにけをこへつけ
二月上卯日山里の
せ弥日ごろあるへきなり
○一乗院　来迎院
一乗院ハ猿沢池の
師の御名なり也
乃阿弥陀ほとけ
行うあ

釈良也ハ麓ノ高田乃人也霧山に登て台教
弘良賀よこさ〻窓灌を永意にうけ義理乃初め。
大意ハ一乗院をたゝく来迎院をたゝく結縁法をもり
通をうけ修行して待賢門院乃宮人になる
にまつ名を問ふ事なかれ
乃月のくさ〻ぐ
猿沢のさゝ波ふく
ざつけまへ也ふるもとまり
行うりへ
八字文殊の経行滝
庭乃大石数〻

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

さりとも。世に融通念
佛ごなのゝおとゝかゝ。
ぴかりとめんくもめ
うんじ。鞍馬寺の毗舎門
そのまゝとゞさりけ
念仏をとなへまつり。
とゞめ。天仁二年。来迎
る。声明梵唄をとゝ
に亡ぜり。とぞ。
大学頭清綱と
ふ陀ほとけ

我ハめうとにてそふ。又都人
○高きのそゝきはるゝ
ふめろこのうち
瀬井(せのいの)清水
○しみハたるのうちもさむそで
業平(なりひら)朝臣(あそん)こうにたるや
あぎくにくやむ
歌よたるやせがれまかるくまり
やくまうらそて
芹生(せりう)里
○十里六里ハなれびや

世ゝそうくに門出(かどで)
○ふるの雪にて後徳大寺
○この日たるや芹生の
我ゟ梅へうもん
小野(おの)
○ふハたるうちに赤
○摩訶(まか)の院にて敏行(としゆき)朝臣の家
にさよけう梅
○ゆきもひさくふりてさくらも梅のむ頃め
白ひのうへうさまに
すゝけう油煙(ゆえん)ふ

秋さくら山をあさやかに向ふもみぢ
ばかへて植んた花なるへし
○為雅朝臣。普門寺のまへにて。
の日ぞうらゝかにもなりにける
もろこしの。花さけるをみて。
○乃ぶつよ。彰考。
後成卿二のよ。小野山や桃花
風まとはかりもるゝ。家淫うるひす
○藤原
小野のうちの
修學寺
○いかゝやこゝろもとゝめん
春のくれ。智恩僧都の房
にて。寺なつかしう。今ハ主家
里となりぬ
高野川
○いかゝやそゝ河のみちや
八瀬
此所ハ。むかし。
村雲にて。
四月朔の辰日。此里の

をけるお鳥井のおよそ
よおうた興をたゞせつ
元禄法師之うたはにそつ
ゐまにうやせの里ろうぬ
めうとぞよつくてうの赤のお
かもかいつ。袋たゞ女れ
れつやしうそ。さそそ
け里よ。釜風景のさ。いくも
病人のつくだそ
こめやうにそそゆう

鬼城　八瀬乃西小にぬ。
しき安全也。そのうちに鬼名こく私花
ひへあうろ有。せよそなた
よそでいろ
北の鬼私乃ひやしぱう
ろ息のよいい私なをそ
ろしい真眼糸んのくよ
家語にあうはせるふ公乃菱翅魁水の龍閉家。
おの猿年ハまあ雑藤乱こし。愛証が文
都よ答解せしぱいるぶよ
が性城あやしまぎるハぱ
くたけく。韓金

八声鳥 俗名ほとゝぎす

[illegible]

[illegible]

[illegible]

抱利るよハ鵜鬼とゝ藤吾神縁よ鬼鬼とゝる衣
服乃鬼と保ハ重とゝ保ハ入けり。
紫釈氏とゝもいへし。阿含経よ生死善悪よ報
の報ハをゝ。誉喩経よハ富貴の鬼よ教活を
ゝ見法死殊林よハ家乃餓鬼當寺の沙門傍観
慈悲をゝ。懲験緑よハ村達中他の生の事をとゝる。
蜀精のんよ奏ぜんハ。ゝ井
一切経写の函よ悪鬼ハ迷放るべし。
地のおとんまく。沸釜
僧格
ゝくゝとゝべきゝ事なるとゝくお

ちゝるとゝくばみハ我執るまく。千部乃四鬼と
やしなひ。坂上田村丸ハ冷康山共鬼ゐ打。源
満之国ハ羅城門の鬼。利仁ハ芋粥の鬼ゐ
ゝる。源満仲ハ。信濃国戸隠山の鬼とゝる。
みのくら。保之将軍事雅
秋ゝけめ。大江山の酒典童子よハ源頼光し
○
うゝとゝまくなゝるべし。
女郎仮髪乃おゝる鬼ゐ。
玉のおとゝ。雅ハ黒髪
生ハおゝ鬼なくさゝるべや
ゝてゝとゝ作りめ。聰明ものゝてゐんゝ

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

不動尊 不見堂 張巡の靈魂 雲雨の忠義鬼 ゆいき
ちてぐるぐる 怨結なの

志津恵

○けさ見ゆ 大恵乃小あれ
ぐるぐる 小恵 静恵 大恵
鞆るもの 下にも
宿 なるべく 心こ
なるべく 静 小 大恵
鞆 宿 なるべく



余っ 多者り
もひさもんや
ろひもぬ
むぬのおも
んのおりむさもぬ
けもぞ

激論

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

## 寂光院

○此院ハ建礼門院乃御庵室の右路なり東むきにちいさき茅ぶきの堂也中間ハ長二尺ばかりうづ地蔵なり其右のかたに門院ハ御年をなをへ給ひし時の御すがた阿波内侍像ありて門院ハ其左の墓とぞ。さるほどに平信長公ゆゑ有御建営ありて御尊像ハ其ままにて。そこにハ御位牌ばかりを安置せ奉れり。

建礼門院、高倉院の后妃安徳天皇を御母
相國清盛入道乃娘なるや。文治二年御年
九ツにぐしおほしたてまつりにうらせをわたりしまぎ。建久二年二月中旬のころ
せをひさびさうこうの四とて
誠におもひやるこそ物あはれなるの
うふ。ふるさとはくさ木おのものげの
山乃葉偖里となりて
ひ鄰獨なるこそ飛
猿のこゑにはも
いと。悲
○
お室ハ々りこそ
火垣の保蘿志ぎる
又波ゝ辰乃ゑ
ゝ小麻れ芽乃
雨おるもめ。柳宗元
ゝ後白川法皇の
おゝ
ゝ
ゝ

龍門山のおく小住居

龍門山のおく小住居

龍門山のおく小住居

洛陽名所集巻之八目録

岩屋　鞍馬　暗部山
菩薩降地　市恵小町墓　貴布祢
今宮　二瀬　萩野
深野　上野　蓮華寺
蓮華寺　舟岩　蓮華寺跡
柏森　若狭の　頭塔
小塩山　大悲寺　岩滝
柏野　岡崎堂　六歌仙
衣笠山　雲林院　天神社
　　矛野　廉光寺金剛
　　神楽岡　水山
　　地主権現
　　六歌仙

岩屋

○此処ハ弘法大師乃開基ならん。本そるゝ不動
水ゟ出ル
香水ゟくぼくけ
ゐる水をぴ来のゟ
しるくうへてぴ此
しかひせる事ハ
洛陽なさるゝ
半腹のゟすしる
ぐつゝくぴ
なべて

鞍馬寺

峠にて乃ぶ
もの歯うさけんをさ少くもまれくそまう
雲畑とも赤に茅屋なるめにたゝれや
しくをいるまなる色ばうや新たる男の
星いつぐ紀歩くまりこまる
仕う紀そ乃村うう十町だうりぐろう
まくうまくみつくぶうくろくろ銭に
むのうう世乃人村れたなるぬそうぐそ
いなうぐ滝ようしいぐるんいうせくぐの男にいと
う

○

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

## 鞍馬寺

○山寺、都より三里ばかりなり。

鞍馬寺は伊勢人の創るところなり。大中大夫藤倫卿、大史。仏法をあつくしたまふ。勝地を見ては、堂宇を建立したまふ。観音像我家重代なり。昔優婆塞の夢に感じ給ひしより、日夜に念じ給ひしが、延暦のころ、まさしく現じ給ひぬ。白毫より光を放ち給ひて、大きなる山に通ること一よ。この故に大きなる山に仏法ひさしく伝はれり。

昔しは山地天下にふびんなる霊区や。

て堂小さき色のごとくなり。

汝練若寺営せしめ給ふ。和気公を号となりんとぞ

大夫等の中にて第の名ひしに、王城鎮守。

貴船の神やさめくくのたまふともそらごとにぞ
思ふ大文字くうくうと白馬よ。鞍よりおりいそしうして摩騰法蘭ハ舎利像経巻白馬にのせ震旦にきたまふ。それハ白こま
高やかにさゝやくき多のたゝなはるらんかな
て。一童ありくへおもしろしと山門に。真馬城小に白
山ハの茅葺の中のおこそでやうなぬきてゐ
けるをとゞめて大文字をうつしてぬきたるとぞ
に。多みたゞしきをもつて茅葺よ叡山門天
像なるべし。すれハうつし一字をうつして。のち後
なんとぞ。鞍馬寺ぞ。異しぬ。それぐ

○

観音の像ハうごゝ。紙のまゝぶやけざまのもの
ゆへ。観自在の像なるべし。その中央に多仏
の六尺ばかりの童ありけり。観音多門
名ゝにして。作おもむきいかにもふるびたる
ゆへ。後日又一室をかまへ観自在の像なるべし。今
の西方の観音院ゑ
ゝにもゝ。霊應ゆゝや
峯延東寺十禅師也。
見ゝに。紫ゝたりやしうとゝ延寿
なりぐ雲乃おゝゝ。

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

鞍馬寺にいるうぬ。目ま
ぜをたくらむ。まを焼くく数日乃弓堅猪
ーけるにそもうの女鬼きくめうぜ向
いーっぱ延郎くく堂れう
中に入一ぬ。鬼逐至つ。目をつのつ。鬱と
うでうっいうさ事ぬ。聖百大中大更
延明舎門を金でたるもうに杉まづう
藤伴掾人に入延がう
なうへ。ものーうぬ。
かうそうかう

寺主小くをつ。及ぶ月延護慶阿せう
もうて大蛇同電のごく。舌火乃ごく
うくく小罪うるうこうれ。延又明舎門
ぬ児を調をーのっ蛇。小ぬうにうげう
きうつく。阪小くうるう旨のち変
まて。阪蛇ぬ児。阪門種
ぬるで。歌して後ぬうへ。この
乃蛇を静ぬ山にうそうへ。
のうううぬを大裏ぬ事くいっ。延喜
中に退も
重怡ぃ伯勘のへや。部家にう。阪家を

まるび。後鞍馬寺にて
字をもとゞび。一六の六字
小豆ほのくらぐら
ふるとき十四字。たりうう
浴衣一。着にもう
十六
正月寅日
人ふうしむる
後撰集に著
八我と人もやも
亭の流の
家れ中
さそなんやいつ
○僧正谷　鞍馬寺乃西のそまり
けすく。源義経
黒人ほ金一刺撃の法
義経ね剱甲

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

形容をおのおのもとめて
世にけうそうしてげすと。天狗
かくもうそくにして生
蛍光旗星乃義よりの
巨魁にして。愛宕山の太郎吐良ひさ
次郎。伴都宗孝と申。富士乃ふもと
妙義堺。常陸の筑波法
師太山の伯耆坊。大峯
比叡山の法性坊。肥後の阿闍梨。葛城
の者高間坊。これ雄の内供奉如意嶽乃
天狗とこれらをぐいおほ
金色の大鳶にのりて。空
鳥羽院へ後醍醐院と。二ツの鼻句代の
の龍車にて乗たまふとぞ。まのあたり
いつ堅容異行を見物
くこそうまれ。金輪ぼとけ
さもばかくいつ

暗部山

○けふハそまふ乃てさ
紀貫之のよ梅乃花匂

やうに遠きそこそこくそこそこる。在原業
○
この頃秋乃よのありあの事終を
くらぶやまこをもみ〳〵ぬぐひ
も古今集にみ〳〵俗つま。又新拾遺よ。猿
式部そこ面ままたかこてん。
けぐ緑こを扇にぐこ
あまそれむ。いのぐこ
事あをこい誰れめ〳〵
あけこそこなこ
○
池。家乃小南まこそ射けこ入こ
此菩薩池
なあこくの池のこをかこ
てなこ。池のこいこ
市面
○此本。こそこ池のみ此立ある
中院准后親房吉今序法よ。小野小町の事。又今昔
仁明天皇。紀和の乃人出羽國郡司の女國色無双の人
なこ
郡司名実亮良
こ代の経中の良實こ
二瀬
○此本ハ字面のみなこ

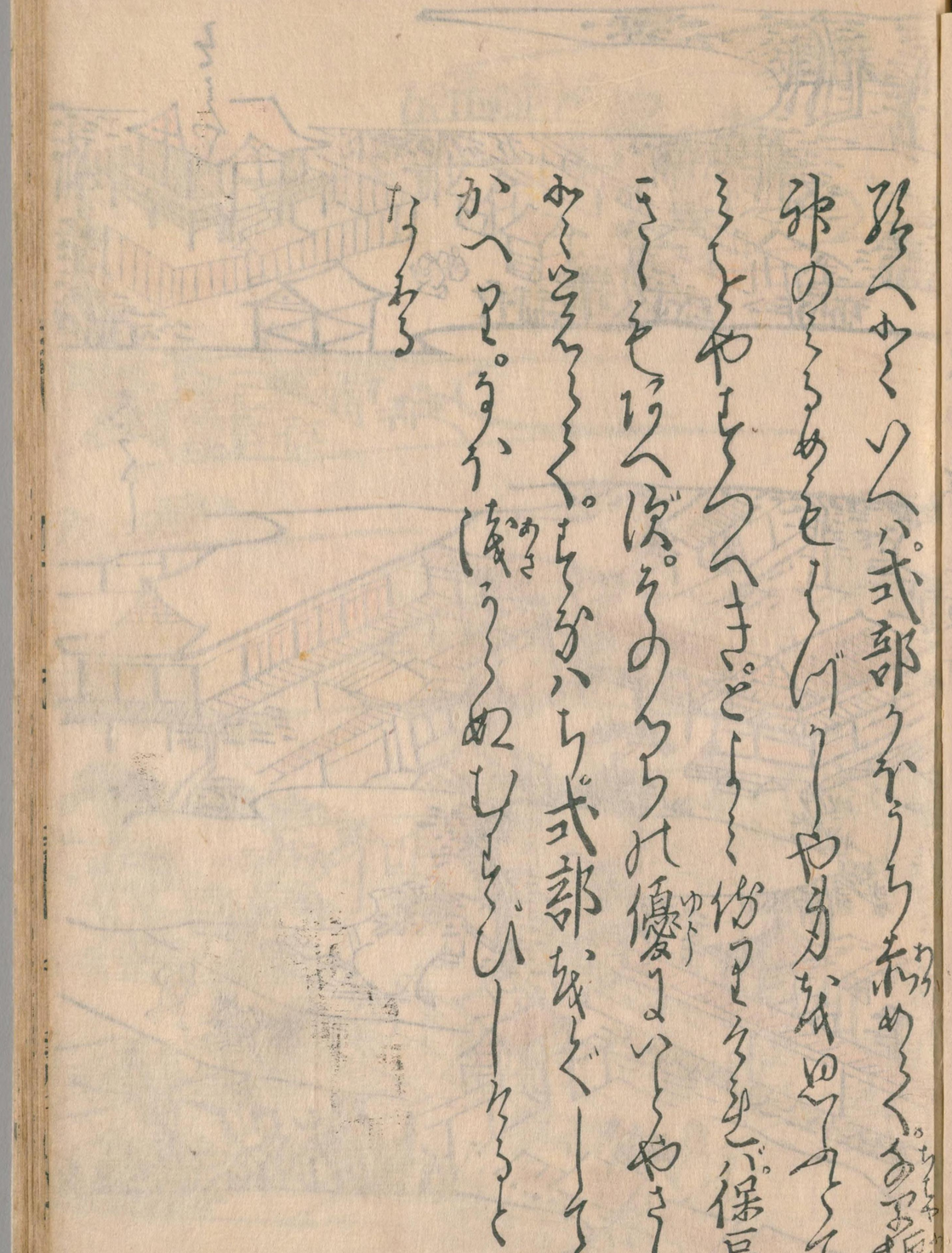
貴布祢　貴船

○は社　勤まる事乃如くなるものを

○別宮なり社乃かくいふおりから

日本紀に口伝并諸家軒轅遺実看為三座主三座為
る靈　高皇神書物云る両靈
おや貴布祢命をあり

とをいのるをもやしろまつりくに社司幸平安を請ときわりを用乃うけわれ七きけて
井せきよねとも此上の祢とよめる
法多をさて百日乃号奉祢、
まし乃保昌とうまくに
如此社、まして尊乃元と
如なり八汰への美物多くあり
けれ、御との中より男乃物
御はし川乃主ちるえうおなひ
巫をかくひはつりせさせるよ
来うけしもりくれ乃御
ありくんるきこなる



国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

## 今宮

○今宮ハ大徳寺ノ北ニアリ。疫癘ノ神ヲマツル。

○一条院正暦五年世ニ疫癘アリ。人民多ク死ス。長保三年ニ至リテ又甚シ。仍テ紫野ニ社ヲ建テ神霊ヲ祭ル。是今宮ノ始ナリ。

○今宮ハ大徳寺ノ北ニアリ。疫癘ノ神ヲマツル。

○一条院正暦五年世ニ疫癘アリ。人民多ク死ス。長保三年ニ至リテ又甚シ。仍テ紫野ニ社ヲ建テ神霊ヲ祭ル。是今宮ノ始ナリ。

世ニ伝フル所ノ物語ニ。今宮ノ祭ニ参ル人ノ子ヲ捨ツル事アリ。後拾遺小。藤原義能ノ子。白ヌノヲ以テ包ミ。ソノ衣ヲ以テ被テ捨テ初ノ歌ノ詞

御霊會は五月廿日也。その七日ハ出し
ゝく舟岩の松の根ほり下へう清
し一份ぬそのゝち。音羽人ゝ系譜昼夜を
この外ゝすみぎりくる家屋かうひなどゝけ
つゝ。祭礼よハたくさんにて十二なもせ。旅人
供もの一ぱいをなすもの
○若狭川　鳥井のおなり川なり
○上野紫竹大門ゝそこ立ぶつゞもゝて宮の
小のゝこにて

○萩野　うへ野のゝこうなる梨垂ハ兎ゝ
野ゝゝそゝそ萩の名所ゝしてよ萩ハ
かりさ。残ゝ秋乃ハじめ松虫の音を
ばくおゝゝゝゝ為ゝゝ松虫ハ一入
露けくおゝるまゝ萩のゝぐさ一くく
さゝゝりあのゝうゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

此野にての大法もあるなりや

万葉集。源重之高野に宮人のかざしてゆきしあとのしめ野をみてよめる歌。

雪ふかみ入野の小笹うづもれて猶ふみわけて帰る山人

大通寺

○此寺は今宮の南之町にあり。大灯国師の開山也。龍寶山と号す。

妙超尼姓は紀氏なり。播州揖西の郡の人也。宗掌の号を父母なきさきにおくりたてまつりて尼となり。

心の如意輪観音にいのりまいらせ。年四十にて宿願のごとく

まうでこもりけるに。白衣を着たる男の来りて。

らわが妙超つぐべき法の器ぞとて。この骨をあたへ。眼光をやどし。

こと異なれとてすゝめしかば。尼は一歳ばかりの女子を抱きて。

洛の北紙屋川の流れに庵を結びて。百余年の星霜をおくりぬ。

寛元年中に。京都相撲にて。

宛名未詳書状

諸名家歌宿之巻 向国師

掲焉悟道第一の行者なりしかば。建長の大慶国師より

十二月三日遷化せらるゝ。妙超尼の書状。

寺と国居しけるに。本朝の夢と儚く出世

乃事ひとしくなりぬ。

てうせ堂ではうそうの言葉

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

法王。も亦。儒家の九人一毒を祛んことを
朝廷に奏し。議論より
ひ。ふ。ことを来ることなし
大陸の方丈と。雲仙竜と。
を為す。仏法不思議と。
奏こと。玉法を思ひ仏法
大行る窓打国師の号を賜
のよりも今さの編旨以
月丈二万三千七化。
舟思

○紫野のこと。
乞墓所乃一つ
玉薬集に舟思のこと
てすこと。人をそ
西行法師のこと
いまことを。
おくのこと。
舟思のように
ふ。ことを。

ほとゝぎす屏の羊躑躅さゝぐ像を
しるす三の廷の人もなくさ
乃伏てまぬぐふ涙なるらむ
志ろなにゆふうめるたるの

蓮華寺

○此野ハ舟岩のあしもとより七野のさきまでを
世にほとゝぎす俗ハ今宮山ともいひ鷹峯
のふもとも。一日余あそびのおうちもかなり
なくさまされて。此野を乃ぢぐさの
なつめりーのへが来人くさくさもろ
散へ舟岩のあしもとより野もそこそこ

○此寺舟岩の西なり弘法大師ゝ刻ミ
御魔堂 千手

○此堂蓮ミもる此あたりの
ものなりしこんもりとそびえ
もたるもの他とちがふ。まゝ二月のはじめの
ゝなん竜ノ院の例祭。文政中に橋ノ人ゝ傍
ゝめらまつりやうなり

○雨竜院 此院ハ弘ぬんまの
或説のふるまつぴ院のふるものにぶげんざくさい
ふるくさゝふるもの

いけをさうとなまこへはおとうふ
せにゐれ女のあしとをいへばおまん天とも
○
云ふ寺町通れうんごうじ
相国寺の林光院にて
斎の節ふる栗朝食
まつぼくりから朝食の文慶高えまの横も林屋
にはりつてさうるうの
頓野
○
此野へかゝれば野のはづれ
えのもんまをれもんまの木像のうらの松
つゝりいとせうかのくかぢ

拘森

○
此おいけむくさ村のはづれ
為家公このにあのゆふ
入日をうつしもみぢ

雲林院

○
此所へ大徳寺門前なる村
通海てれおまん。和泉式部ごんへ
はたけにくさ
とて我をおもひなりあふぶとうそんな
り巻もの式部従ふの一をぶるる也
まつのもりの花を風は仙をれ

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

○有。大虚菴 梅阿弥 白雪軒 野間 玄澤 など

岩陰

○山水の筆の小や。岩頭加尾とも

或郎公浦資業三のして。岩ひげの煙を雪よくうけて

その名のごとく。岩ひげの花をしろ

岩をかきへ。ふりてつ。さゆへおく梅雪

しまうして。見わたるふもと二つ井大ふ亜ひ岩

小ふ。むすめ。妻宮なり。ふうつ。犬ふうつ

名ふうつて。せつおもふ

氷室山

○山は長坂。都乃良ひを

土御門左大臣。三のにあ。水のこほりのとけ

きを氷室山雨を

仲正よ。下さひ氷室ふ山れおそさふ

清みふう雪のとそ。やふうふ雨そな

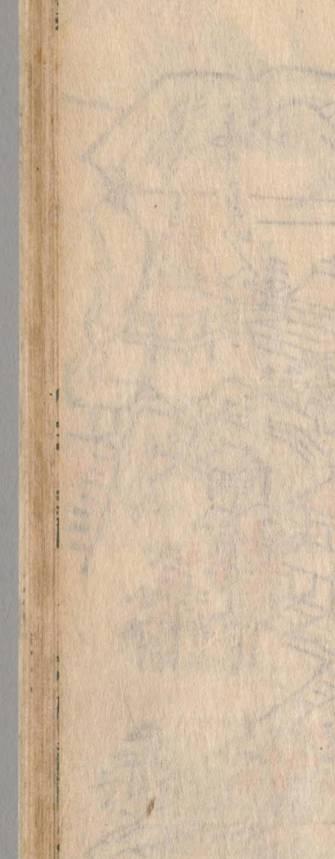
千載集よ見ふふ雨

仁徳天皇六十二年。額田大中彦皇子。闕

鶏よ。かりしなつて

迫ひのやつ。ふおかし

くてあや。東物ふ



又老子小閻に變ずといふ。伯陽なる事を
世の知る所なり。二の日蝕金環の事
は後漢書に見えたり。仍の凌法といふ
は春秋左氏傳の昭公四年に豐
閏生ず澄而藏氷西陸朝覿而出之
と牡桓桑以享司冬とあるこれ



ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

○けふハ平野の西まつり也

之社神　第二今木神　日本武尊源氏神　第二
久度神　仲哀天皇平氏神　第三上ノ日開邦　仁徳天皇
高橋氏神　第四氏毒大神　天照大神大江氏　第九
鏡神　天穂日命菅氏神　四姓　中原　清原　菅原
秋篠　已上朱九一社也　傍ク八姓氏邦
皇太神宮乃記乃社ハ文ニて今ハ社邦
ゟ此ゟ平野ゟ社ニ
延暦年中にぞ遷ぬ
延慶元年十一月九日ゟ初ゟ祭祀をゟ也

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

紙屋川

○けいもう小ゆきの西の郊野の東也
雪つもりぬれば紙をさらせるがごとくなり。
夏は神谷川ともうけり。世俗なかひがわ
なまるなり。

○鏡石　紙屋川のうへ巨石也。紀貫之
哥にうづき玉乃わすれ緒やかくれん
夜のつきぬまるき石雪ふりつもりて
なをまるく

○高橋　紙屋川のうへにかけたる橋也

○けさ野へ遣教經堂乃うしろなる
梨鋤のもとにて松たけ
○神明　小野ものさと
びわう村の内や
○小山
○けさ家数おほくもちなひろう



○けさ寺へ小山衣笠乃ふもとより
尊氏将軍より三代義滿將軍應永四年
この北山へうつり給ひて
當時善提殿かゝり。鹿苑寺と号し給ひ
そのゝち光源院殿義暉將軍名付給ひ
もとにおはします。侍所
こゝにぞうまやさむ光源院殿一服
清水をもちゐしかもの小川
乃簑屋ゝゝみの
そべかゝりぬ。

御ふるまひ
しけるあくる日
鴨山五堂にて贈答
長老ハ勧修寺儀同晴豊の男なり
打ち太上皇の灌頂
院殿うちへ入室ハも御
役の袈裟ハ
乃入室ハ
ひつぎ
ふるまひ

世のなくなりて金剛寺
義満将軍
りおくり
ら四九千人
うのかうがめ
ぬ

○ひえい小比叡の西
ふもと

須玄に帝よりくだされ
給ひてふる雨
きぬうちとて

なぐさめ水乃ごとくにて
この関ニうつして秋ごとに種ニ
うゑ衣ものごとくまさる白つゆ

勝王院

○此院ハ鹿苑寺乃近隣や弘法大師の御堂
みえ○なるハ不動や
右のごとく門ごとにて名所の
なりぬ○ゆゑに名所乃
ごとくニ石不動とのミいふもの
六所宮

○此宮ハ衣笠乙乃麓

天神社

○此ハ鹿苑寺乃東や三社ニ立りゝ社ハ
天神ゝ左ハ稲荷右ハ春日神也。
今ごろハ二月十日ハ小ニ立ハの社
おのごとくも賑ニ着しゝ鳥帽子かけ
明神とぞなしてるゝなりぬ

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

洛陽名所集巻之九目録

北野　門跡
釈迦堂　遍教院
地蔵院　西方寺
太秦　槇尾
　　末鴻

観音寺
高雄
栂尾

清玉堂
神護寺
妙心寺

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

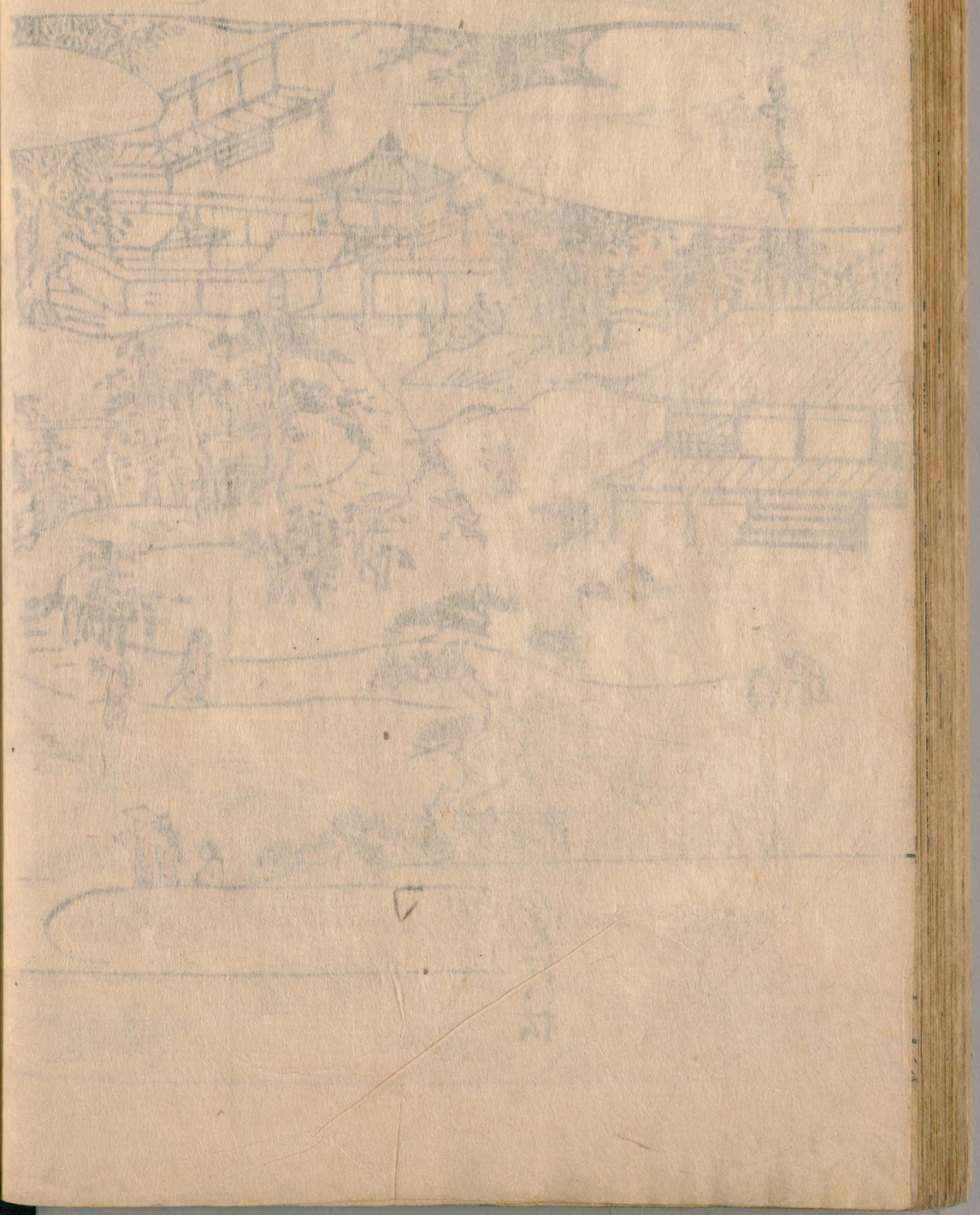
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用



小野
○いふハ。都城乃小西也。天慶元年に。菅神廟
なりけり。宮社深営。繁榮なるかぎりなし
くぞふ后都もたちなをしなんとびけるよさま。
わりなしや。
小野の天神ハ。右大臣菅原朝臣の霊也。その天徳
四年庚申ころもつぐ。歴世たえ
公ありて。是善公。善公より
ふ。善乃翁。右大臣。その
うつろく。頼信ようなり。

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

寛覩て享之月。丈室早生に補し。同九年。従
業生を以て。十二享二月二日。対策及
第し。十八享。侍従より。元慶六年。渤海
國の使節。詔儒よりも。
待詔を以て。
にて。仁和
月。中納言に任じて。大納言に
昌泰二享二月。右大臣より
のち。左大将藤原朝臣時平と上

○

寛平二年二月。参議に
門に吉祥院よりくだかたなり。六享の月
月。中納言に任じて。大納言に
昌泰二享二月。右大臣より
一旨。菅原氏より上書の事を
よりもありて。右大臣
して。止けり。左大臣
光卿朝臣。菅根朝臣。なども
臣の妹。宮后なりしかば。
くおもひけるにや。延喜四享正月二日。太宰
権帥に左遷せられ。
延喜三享二月二日。配所にて薨じ

もくはち。安樂寺よりで。菅丞相九州にて
平生御ざせ」ありしその板蔵菅家御集一巻あり。詩
文ともに菅家文章とぞ。寛弘の後集四巻あり。
もくめ右大臣。紹傷と御序ありし。文臣天曾實
録十巻。菅家日記あり。
國史ありし事二百巻ありしを。延喜八
年より。藤原朝臣菅根朝臣。九年より。左右大弁平
菱し。十四年より。京師実録。延長元年より。
太政官の親王攝政。

乃崇ありしを。天慶三年より。左大弁藤原清貫。平希世。
おもに撰ぜしもの。辰丸し。兼平
五年より。延暦寺実録。天慶三年七月菅原右
京大夫文時。
系七源氏の姓文ありしを。
撰ぜしもの。
國比良社乃祢宜良種に託して多名をうしなひぬ。
大内乃小野ありし。一夜より名を松枝野せん。社とぞ
天満天神ぬしのびびしく
下給ひしより右大臣藤原師輔大度祈わらため
ぬくるまがりて。天暦九年九月廿

朝日寺の僧最玄右京の亭と力を合せ靈祠を造

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

之日庚申乃夜内裏回禄し
おほく殿舎あまたの工匠作
けづきつかひて一夜乃ほとに
くしひ文字をけくうつくしく
やけるんとうつくやむひの
ちまのあるん
正暦四年九月勅使我家寿乃安楽寺へ
いし詔して大改大臣正一位
時乃神託を託して曰 昔
都雪前冤七條死欲其報我
やなう
小野のみの宮殿のそうまへ
外よ侍ふ又曰天神出不ハ高野
又曰お梅殿ハ今条坊門の小野
ハ天神出所ふぞの左近少将
ふのまこうふう 白ひおこ
おくれそくれかくれそ
梅ちくく病不のあるよ
夢観集に薩天賜歌天満宮託神
通千里飛梅一夜松萬事

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

○此寺ハ淫堂ト云也観音百堂東むきにたゝ
たる山本左大臣翁建立の寺等数多事也
此外へけるハ院をと菅神御詠の比類

○此寺の右をの馬場ハ土手を
為家卿ここのにいるせん関
ゐ
ゐまくゝたゝめ作よをそよ
く後深草院ゟ将門侍乃
門望乃雪にゐつまくゝ
まの、ゐをゝゝゝ絵をゝ
観音寺

○此寺ハ淫堂ト云也観音百堂東むきにたゝ
たる山本左大臣翁建立の寺等数多事也
此外へけるハ院をと菅神御詠の比類

あり。水を也。法の天井板のおりおり時のもの。宗旨ハ真言也

毘王堂

○此堂ハ観音ゟ乃南隣なり。当寺乃鎮ゟ毘王堂ゟくりけり

○矢大臣杉　経堂乃おや

遺教経堂

此堂ハ釈迦乃末や二月廿五日よ。御命終ゟ。ことなり。その日乃ひるゟ雪ぶりもふらぬ。ひるゟくゞ。ゟ。ゟ。ゟ

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

高雄（たかを）神護寺（じんごじ）

○いでや、洛陽（らくやう）をも一里餘（いちりあまり）乾（いぬゐ）の方（かた）や
○玉葉集（ぎょくようしう）に、久（ひさ）く基（もとゐ）ゐのよし。うたがはるゝを山澤川（やまさはがは）
底（そこ）よみ尽（つく）く谷（たに）うけめぐる
高雄（たかを）上人（しやうにん）のに、清滝乃（きよたきの）流（なが）れのさまなるを
心（こゝろ）人（びと）も汲（くみ）ぬる為（ため）にし心
むの帝（みかど）謹天皇（きんてんわう）の創入道（そうにふだう）寵（ちょう）し給（たま）ふ。
往（ゆき）て讓脱（ゆづりぬ）ぎ宇佐宮（うさのみや）へ和氣（わけ）公名
勅使（ちょくし）にたくらみ
やくなるべ。神（かみ）ごゝろ
ぬ。天皇（てんわう）さるものゝ

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

乃海山へあるゝあ。左右共に斛ゝ
なくしもあひぬ。かゝるに奇雲松名が
うへにかゝるも雲中にて衣冠乃人ほゝもと
くしひ。所以をしるものなくいたのくくる。かゝ
神人ハ八幡神なりと。こゝいのくる薬師を作る
ゆゑぬ。松名ゝくて精舎をたてゝ神護寺
と名付たり。乃ち。文覚開基しけりぬ。
又称乃備正位也しこゝ。愛宕のる尾や

○神護寺　諸堂望る
初ハ神願寺と号しけるを
神護国祚真言寺ゆゑぬ。天長二年にひく。

釈真済ハ。紀氏洛陽の人朝議郎御國ゐと
も。母ゆゑありやしなゝくるゝ慢誕生
しけるとぞ。おさなきよりのうまし。ゆゑ
うしく。大小乗。外学のこまぐ。ひろくなの
し。弘法大師よりくる。密法
なゝけ。高尾峯にのぼれて三年のあひだ
おこなひ。仁明帝乃勅うけて唐へ入朝
くるに。洋中のくゐ風波乃難おゝく。ふゝ
やぶをなぐし。従者二千四人乃こゝひ鐵
死しぬをぐ。たゞ十人真済のみ
許ぬるはるゝ。こゝ百乃内ひ

一にて。海とあやしさめくなくなくなく。
南島のもの出くるもの内よ。堂塔おくおく。
也。悌高尾神護寺の内よ。堂塔おくおく。
虚空蔵像。春秋大法会の後
て。治まいのくまうくる。嵯峨帝
にくまけり。弘法大師
かくやう。貞観二年二月廿九日を
てかりぬとぞ

文覚ハ藤氏おとうとの者や。
十八のとしのやまのまて。婦の首ばかり。
宮に入幹事ばかり。祥瑞と
もに歌舞ばかりまけり。
ふくびと弘法大師
宮に入幹事ばかり。保元上皇
延尉にて。逆鱗ありて。
名ハ武衛将軍源頼朝

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

業の求武衛詔狭
う。文治のはじめにいと乗ぐるく
かなばし。ゐそみくだ覚れ威勢の
て又東寺狭間しく
みく。宝のくの乃ふる。那智山にも大誓狭
むとび七日御の下にいう。ここ日とぐ。籠
数多恩よう。ものく。覚なでたちよのに
きくり。ふ覚ないうく。覚いうく
そなど。さい仏ぎ動る。師を保
護せむとい仏ぎて上に乃ぐつぬ。覚ま

すくたくしてお
仏よくさ見をの仏。明るう見
日をはし。ここ七に乃く
ささのれのくく
多くの精法仏りも
け所すかくのの
なのあなし。
ともよう。花るぐ
かんちしく狭いう秋をりちむやふ
くもをも。やう度ハ狭ひそうく
みくにのくるふも。姫乃るそや深う

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

なごのふくげみまとぐ三田の秋もふ
水にうかぶふもとなみ
ふのふも多のや老ゆくへ
うふもをぐらぶ華乃ふ
ふてふ梅延乃ふれなる
して枕林となるもふ宋山にのふぐや
霊運ハ暁雲ねの乃べ巌武ハ宮紅ふふ
郭功父ハ蜀帝よにふべ崔ぬ信ハ呉江ふ
なのどにくふ車ねごめ二月の花をいのぶ
く社牧いさぐむげみふくぐふふ
べ照公横浦ハ呉越が多に入唐前川ハ夕陽
中にふち。徐玉泉ハ綿城居ふなのめふる
とぐげふさめもふぐやしぐ地の
名乃多。同友朱泊数事ねし。謝ハ
みふ条ねふる村高雄山高養楓樹一般新雪
霙松名頂波冷真洛身黄洗茅舎両紅逢武陵春
人去鴉宿林間似昏晨ニ
地蔵院
け院ふぐぐなふ渓ふもにねふ
れふげふふ人ふ土哭なげ驚ぐふよ
手の条ふぐ吹まぐごふそにふ
ふぐ俗にけふねかふもやふ

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

槙尾

辻一歌ハ高雄より七八町北小坂
新後撰に雅経卿のよみ
花さそふあらしのおとハみねにして
紅ハ槙尾とうめうなり
いうめと江後さしうつ
ゆへまことに繪家前に
又下野のうつのやまのほとゝぎす
衣うつなりと治の里
おもふらむこゝろのほどや
なをあはれ

槙尾

○此所ハ高雄乃西の
上人ハもと和三の
栞と書給ふ
新勅撰
釈高弁ハ紀列在田郡
帝乃清兵曹
とや。母。孝更の
その妹より
我あるへしと
姉うぐひすと

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用

正月延喜もつけ参。彩雲やそやにみて
仍年六。四歳乃ち紀重國にもとより美児にして
慣ふる色。このくのぢうなる。冠中をくつ
やいと児そもおもほえず。仕途にのびらんや。
こゝろいしく。官爵ねがひしぼ。ちのつら
とけゝぢらでやみうなえそ
庭下に投しけもゝそのまゝ
仍色ぐ。おいさぐまびぶ。赤突加多
ちのつら。次着とる。面にやきおよをんと
ま。えゝうに。花驚にのてーー。

熟痛志のびゝうけもゝそのまゝ
なげとそめ九歳乃ち父母ともにぷく
めもぬぷくて宅ねもれもゝ高尾山寺
上覺ま志ゝうも。僕舎頌をとみ。旬日稽児やも
にくゝそんじゆうに。一日雖児やも
ま。にもれおそぬしに矣ひもけるふも
父母の劇苦をもちびまゝ天眼まくさハ
もおくゝ。ゝれぐゝとかんをものをそ。
涌もゝく乗業ねけとゝめ。十之歳うり門まで。
遊学をさとゝし。密乗なる實にこゝく。
雑義哀ねる景非まなゝひ。ナ三ゝて諸備

多食、法おしまひ。鴿と
なり。ことごとく。夜いひそこ
にいこふやうにて。止宿しぬ。
又文殊師利にて帰し。日
ちのごとし。十六なり。
し。東大寺の戒壇にて
九よろこび。興然阿闍梨
ばうけ。ちうちう。北山の梅尾にて。
宗をこなひ。おはり。
く。我ちのたふとき。金師の
その如

光顕和二年戊
忍行をもちて。坐禅次第并入解脱義
二巻なり。ある時。仏眼妃乃法供。
しおはりぬ。初夜の供。
いそぎ入堂れば。西方に見え。東に
りその光なる事。小大星ばかり。
ましにいでくる。事更仏眼
るかごとくにして。又多に相妃ばかり
しは。日。般若理趣分
今朝ばかり。理趣経
音こえやうやう。事

経句乃遺忘せる処まで
もひ出たるまゝくさ〳〵
法施せり。其場たち
なる宝蓮を敷めぐらし
梵儛ありて香炉に香
かうばしめり。又供乃品侍者良詮を呼んで
しめ。水桶におもちゃの蜂蜜
うつくしき小鳥をもちくる。一日乎をくりて。
仏眼にそゝぐに血像檀供
もつや。垂示文殊に法對し
病即乃束。爰に一杯
てうり。餘味口乃
栂尾乃もとまで
えこゝに化別なのへつまで内崎山に船藍を
ろく。四年よまる。栂尾にも
正月十九日の夜。彌勒像
歓しぬ。すでに寅の
角乃宝珠を焼ぐし
又矢の口乃中つまで。白光
らくしめ。空仮虫。彼
法儀をのべ九日の朝。
始乎。

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

妙心寺

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

○妙心寺はおほやまさんにあり。
秋月山慧玄信が建立なり。
のみやなどけなうまうく。
相模しも巨福山の廣厳和尚
ひそとまうけ。建長寺の開山名乃
同列にならひ。海内の叢林
師ともやうこと。事者ども
こそおもなのうまうまいり。
長年間こと。
関のみやなどを得たり。大概

ことうう法脈酬帝の御
うう。その後犯国法皇猛死
やなのうんうもを。大分
大分と正法山妙心禅寺
弱うしう御宿おう
の後。院をたくまも
年頃より十二月十二日にて
七年にぞ
○等持寺　○真如寺
○龍安寺

廣隆寺 蜂崗寺

○此寺ハ仁和ゟ南ニ奉氏ゟ東乃方ニ有
なるハ藥師佛也
延喜天皇ノ乙巳ニ
ホそく蚕虫をやしなひ絲綿をはくくまて
ひく作りぬ天皇ふかく賞し給ひ
山城國葛野郡大秦の地とそ賜ぬ
そもくゝ狩猟系かまるゆゑんなり
また又ハそのかうち巴陽ゟみてゆゑんなり
さるいふ。秦氏ハ北く秦始皇ゟ裔と

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4

ガラス使用

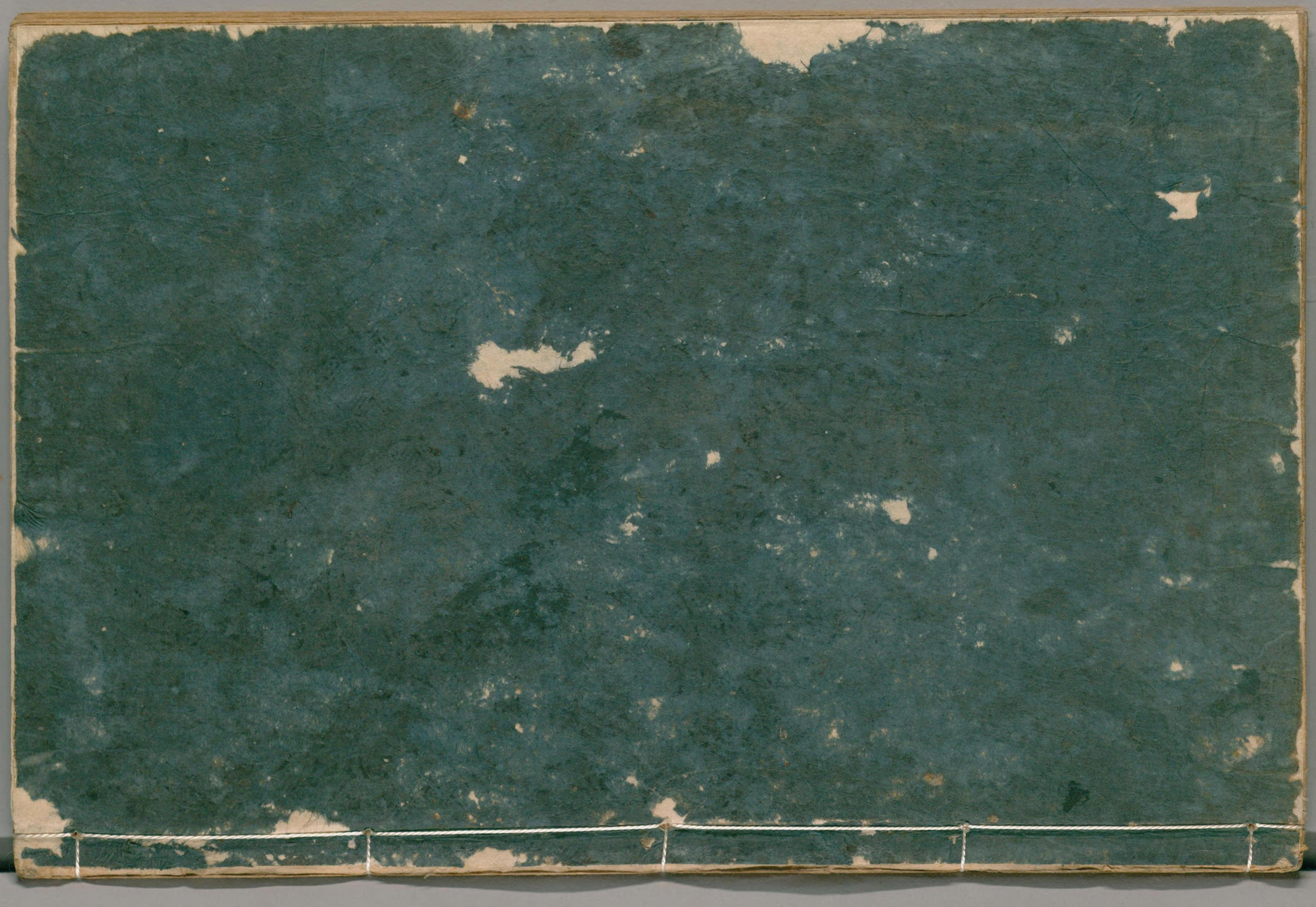
旧請求記号
さ－58



秦と号もそと也
推古十一年よ。聖徳太子
うまやとにて一像つくり
墨もてぬりて。こは秦川勝もてきたり
いつぐにもおうら蜂崗ちかく
くらまにうん。今は廣隆寺也　一像八阿逸多菩
薩鴻

○叶ふ八二あら色乃あなうら
ま。うに水もなくうもれ
いくの養生ありうん

国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『洛陽名所集 12巻』 請求記号 寄別5-3-1-4
ガラス使用